

町家ペンキ塗り替えボランティア活動 1996年 in HAKODATE

■ 1996年8月31日（土）、9月1日（日） ■



before



after



←左

(7) MGMステーション・他：1907(明治40)年、元町2-3

【塗り替えの配色】外壁下見板：淡い緑色、窓枠・柱等：濃い緑色、外壁塗部：白色、小庇：赤色の4色

→右

(8) 窪田家住宅・他：1937(昭和12)年、元町24-18

【塗り替えの配色】外壁下見板：クリーム色、窓枠・柱等：濃い緑色、小庇の小口：赤色の3色



before



after



●塗り替え対象物件の選定理由：これまでのペンキ塗り替えは大町、弁天町、弥生町といった、西部地区の中でも基坂より西側の地域でおこなってきた。それは、これらの地域に洋風下見板張り建物が多く現存するからにはかならない。しかし、西部地区の中心となる観光スポットは、基坂より東側の元町にある。この活動がより多くの人々の目にふられるようにと、元町を対象エリアとすることにした。その中で、重要文化財・ハリストス正教会の近くにあるMGMステーション（高井家所有建物）を第1候補とし、その近辺の窪田家住宅・他（平沢家所有建物）を第2候補とした。

●塗り替える色の方針：オリジナルの色への復元、歴史的に使われてきた色の再現、全く新しい色の創造、周辺との調和等を考慮し、数タイプの色を選び、それらの数パターンの色彩シミュレーション・モデルをCG（コンピューター・グラフィックス）により作成し、建物所有者と相談した。その結果、MGMステーションでは、すぐ近くにある重要文化財・ハリストス正教会の色を参考にし、外壁を淡い緑色、窓枠・柱等を濃い緑色、外壁塗部を白色の3色の塗り分けとした。また、窪田家住宅・他では、すぐ近くの建物が白色のものが多いため、それに調和するよう外壁をクリーム色とした。窓枠・柱等はMGMステーションと対応させて濃い緑色とした。また、MGMステーションでは小庇に、窪田家住宅・他では小庇の小口に、共通して赤色を塗り、元気の出るアクセントカラーとした。

【参加者】ペンキ塗り替え実行委員会・小林博樹、西原正大、大島高司、修礼、高、福岡研信（以上北海道大学工学部建築工学科色設計画学講座・大学院修士課程1年）、加藤清子、清水幸史、前田芳伸、山本 浩（以上北海道大学工学部建築工学科住居地計画学講座・大学院修士課程2年）、沢 聖哉、高橋 毅、松本 渉（以上北海道大学工学部建築工学科住居地計画学講座・卒業4年）、森下 潤（北海道大学工学部建築工学科住居地計画学講座・助手）、天羽 高洋、板垣沙由梨、岩崎つぐみ、打田健行、近江真衣子、大塚 愛、菊池健二、田原健児、鹿代美保子、平沢利政、渡邊昌二（以上道庁工業高校建築科・3年）、太田真己、小山 剛、斎藤洋介、新井勝利、高野謙介、早坂 聡、藤田洋幸、三川賢二、吉澤裕樹（以上道庁工業高校建築科・2年）、吉村富士夫（道庁工業高校建築科・教諭）、大日鏡一（MGM代表）、村岡武司（元町実業代表）、以上36名

【協力者】高井栄一（建物所有者）、平沢（建物所有者、お金の差し入れ）、窪田（居住者、お金の差し入れ）、吉田和子（建物使用者、ロシア料理のフルコースの提供）、近藤の小林剛（飲み物の差し入れ）、近藤の中島（菓子の差し入れ）、道庁工業高校建築科教諭・吉村富士夫（道庁工業高校生のボランティア手配）、第一建設・板垣第一（機材の手配）、北海道ニッペ建設・栗原隆夫（北海道ニッペ建設事務所出張所「ペンキ塗料の手配」）、道庁からトラスト事務局・関有崎十内昌子（女子学生の宿泊受け入れ、ハケ等ペンキ用具の保管、軽トラック）、道庁からトラスト運営委員会・山内一男（第一建設の紹介者）、大日鏡一（建物使用者、対象建物所有者の承認、所有者との色の相談・決定、足場の手配、男子学生の宿泊場所の提供、作業日のペンキ塗り最終仕上げ、その他活動全般にかかわるさまざまな事務について）、村岡武司（作業当日のペンキ塗り最終仕上げ）

※以上敬称略